

令和 2 年度第 51 回全国学校保健・学校医大会(富山)実行委員会 乳幼児・学校保健委員会 合同委員会

2020.7.27(月) PM7:30 1 階大ホール

全国学校保健・学校医大会(富山)はハイブリッド開催 HPV ワクチン接種率上昇

令和 2 年度第 51 回全国学校保健・学校医大会(富山)実行委員会と乳幼児・学校保健委員会の合同委員会が 7 月 27 日(月)開催された。馬瀬会長は「新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、今年度、本県で全国学校保健・学校医大会と若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会を開催に向けて準備しているが、開催前に非常事態宣言が出た場合も想定して対応を整えている。是非ご協力をお願いしたい」と挨拶。村上副会長の司会で、学校医大会実行委員会を開き引き続き乳幼児学校保健委員会に入った。

○ 2020 年度全国学校保健・学校医大会(富山) 実行委員会

1. 第 51 回全国学校保健・学校医大会 in 富山の概要について

今年度の開催方法について、日医と慎重に協議した結果、従来の集会形式と Web での LIVE・オンデマンド配信とを併用したハイブリッド開催に決定したことが村上副会長より説明された。午前中の分科会は 34 演題、その後今回は富山大学医学部小児科学講師種市尋宙先生より「新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守るために～本当の敵はどこにいるのか～」としてビデオメッセージで講演いただくことも紹介。午後は基調講演・シンポジウム・特別講演となり、通常では懇親会だが今回は意見交換会として広い会場で人数を 3 分の 1 程度に減らして開催することも説明。今後の新型コロナウイルス感染症の状況には注視して柔軟に対応したいとした。

○ 乳幼児・学校保健委員会

1. 予防接種・接種率

HPV ワクチン接種について、令和元年の HPV ワクチン 1 回目接種率は 6.69%、また富山市は 12.21%だったことが報告された。昨年、県医師会・小児科医会・産婦人科医会で作成した子宮頸がん HPV ワクチンのリーフレットの配布や市町村への周知も効果があったと思われ、平成 30 年の 2.43%から大きく接種率が上がった。

【出席者】(敬称略)

司会	村上美也子 担当副会長		
小倉	秀美(下新川)	石原	俊二(魚津)
尾上	洋一(滑川)	八木	信一(富山)
木田	和典(射水)	市村	昇悦(高岡)
淵澤	竜也(氷見)	住田	亮(砺波)
富田	喜久雄(南砺)	嶋尾	智(会長推薦)
五十嵐	登(県中)	宮崎	あゆみ(JCHO高岡)
種市	尋宙(富山大学)		
馬瀬	大助会長	種部	恭子 常任理事
堀地	肇 常任理事	道振	義治 理事
河合	晃 充 理事		

今後さらに接種率の向上を目指すとともに、定期接種の対象から外れた方へのキャッチアップが課題とした。

またその他の予防接種についても概ね高い接種率をキープしていることが報告された。

2. 各医療圏より小児救急の状況について

石原委員より新川小児急患センターの利用者の概要について、平日 19 時～20 時で平均 5 人前後、日曜は 15～20 人前後の受診者数。例年 1 月～3 月が多く 6 月～8 月は少ない傾向になる、と説明。センター長の渡辺先生に問題点について伺ったところ、マンパワー不足を上げられ、最近のコロナの状況で応援も難しく不足気味、と報告した。

八木委員より富山市・医師会急患センターの

小児受診者数について。ここ数年 14,000 人前後で推移し、令和元年の夜間・日勤帯も頭打ちで年々患者数は減少している。令和 2 年の日曜は 20 人台、夜間も 10 人程度で、7 月に入ってから増えていない。やはりコロナの影響で受診控えがあるようだ、と報告。

市村委員より高岡一次救急の現状について。内科・小児科・外科全体で約 25,000 人の利用。内訳としてこれまで小児科がトップだったが、昨年度内科が小児科を抜いた。令和 2 年 4 月から 6 月を昨年と比較すると 81.5% の減少となった。急患センターに出向する医師の平均年齢は、63.4 歳で多少若返ったが、今後同じ体制を維持できるかが課題、とした。

住田委員より砺波医療圏急患センターの小児受診者数について、6 年前より 5,000 人を割っており、令和元年度は 4,542 人。令和 2 年 4 月は 75 人、5 月は 77 人、6 月は 54 人で昨年比 8 割減少したことが報告された。問題点として急患センターの持続とし、今後、急患センターが集約化されれば、こぼれる地域をどうセーフティーネットするかが課題。遠隔診療などシステムを整備してから集約化を進めるべき、とした。

3. 小児在宅について

3 年前より県医師会の事業の一環として富山市の八木委員が取り組んでいる事業で、研修内容等について説明。今年は新型コロナウイルス感染症の対策として WEB 配信したことが報告された。9 月以降の開催はコロナの状況を見て検討する、とした。

4. 若心協 2021 年について

村上副会長より、2021 年 2 月 28 日に富山国際会議場において開催予定であることが説明され、委員に協力を依頼した。

5. 新型コロナウイルス感染症の対応について

全国学校保健・学校医大会でビデオメッセージで講演いただく富山大学医学部小児科講師種市尋宙先生に、「新型コロナウイルス感染症と学校」として、これまでの子供たちへのコロナ対応について感染対策と教育のバランス、という観点からご意見を伺った。

富山県で 3 月下旬、一気に患者が広がり小学校でクラスター発生と報じられ、感染者に対する偏見、いじめが問題となった。学校現場は混乱し小児科医としてどう子供を守るべきか、また家族、学校への対応が重要と感じた、と説明。また県東部の高校生の感染について学校名を上げて新聞記事になったことは大変驚き、メディアには報道の在り方について継続して理解を求めていきたい、とした。

種市先生からは、その他にも富山市教育委員会と協力して学校、保護者への様々な情報発信の取組みについても紹介。委員からは、学校医には情報が届かず、親御さんから情報を得たこともあったとし、種市先生からは引続き県行政、教育委員会と協議していく、としたうえで県医師会にも協力いただきたい、と説明された。

6. その他

村上副会長より、「医療的ケアが必要な子ども達のための災害時必携ファイル／災害時対応マニュアル」案について説明。是非内容についてご意見をお寄せいただきたい、とした。